

いかに安心して生活できる  
地域を作るか

愛老園 羽鳥施設長



社会福祉法人は公益性が高く  
いわば公的なものであり、地域  
を活性化するために施設のノウ  
ハウを地域に還元することが施  
設の使命であると考えています。

愛老園では、市と協力して生  
きがいデイサービス（たかの  
ホーム）を設置しています。ま  
た、施設の前にある県営住宅に  
入居している高齢者と契約し、  
緊急時に駆けつけて支援する体  
制を作っています。また、近隣  
の市営団地において高齢者自身  
による高齢者のための見守り体  
制を構築するための支援を行い  
利用者との協力を重ねています。

我々施設は、自分たちの利益  
だけを考えるのではなく、得た  
ものは地域に還元する、そして  
社会福祉法人としての理念を再  
認識し、安心して生活できる地  
域作りが貢献できるあり  
方を検討し、進めていかなけれ  
ばならないと考えています。

入所児童だけでなく、  
地域の子どもも自分たちの子ども

二之宮保育園 村中園長



設し運営しています。利用者は二十万人を超えました。

「ひろば」を開発するに当たって、民間企業で開発された運営方法  
等を参考にしましたが、内容的には保育関係者が長年培ってきた子育て  
支援のノウハウの方が勝っていると思えました。保育園の専門性は  
高く、積極的に地域社会に還元する必要があると思っています。

また、私の園では園庭開放を行っています。来園したお母さんから  
お手紙をもらった時のことですが、日頃から大変だなど感じていた担  
当の保育士も手紙を読んでから取り組む姿勢が変わりました。職員の  
モチベーションも上がり、やればやるだけの効果はあると感じていま  
す。

社協として専門家との連携の必要性も

利根沼田地区で平成十五年に認知症の高齢者が所在不明となるよう  
な事故が起き、日頃からの見守るシステムが必要だという認識を持つ  
ようになりました。

そして、平成十七年に「沼田市認知症にやさしい地域づくりネット  
ワーク事業」が沼田市内の四十七を越える社会福祉の関係団体や機関、  
警察や消防、民間企業等も加わって発会いたしました。本日まで  
八十三件の所在不明の協力の情報発信が行われています。

やはり、高齢者が住みなれた地域で安心して生活するために地域住  
民が多く目の見守り、支援してい  
くことが重要であると考えています。

しかし、地域の福祉力を高めること  
について行き詰まっている感もあり、  
これからは社協として施設との壁を無  
くし、より連携を深めていくことも必  
要だと思っています。

職員の研修や体制は  
どうするのか

高経大 熊澤教授

施設の職員は、施設内で専門  
職としての能力が発揮できるよ  
うに教育されていると思います。  
しかし、これからの施設は、ま  
さに地域社会の資源として色々  
なことが問われていると思いま  
す。地域社会に開かれた施設と  
して位置づけていくために、こ  
れからの様な考え方で、職員  
研修やその体制を構築してい  
くことが必要なのではないかと  
思います。

また、大学も社会資源の一つ  
として、教員も一緒に考え、協  
力していくことが必須であると  
感じています。

地域に「いねい」に対応してい  
くことの大切さ

県社協 深掘常務



「地域貢献」といっても特別  
なことをするというのではなく、  
納涼祭等への協力や各種体験学  
習の受け入れというような地域  
社会とのつながりについて、て  
いねいに対応していくという姿  
勢が施設にとって大切なことだ  
と思います。

○さいごに...

社会福祉施設が「地域貢献」  
的な事業を展開することにより、  
地域住民からの信頼度が高まり、  
ひいては地域に支えられる存在  
にもなり得ます。

また、逆に地域との関係性の  
中から様々な刺激を受けること  
により、支援の質の向上や職員  
のモチベーションを上げること  
にもつながり、結局は施設の総  
合力が高まることになると思わ  
れます。

(文責：施設支援グループ)

